

# 瑞牆山・金峰山 報告書

2018,6,4

J181072 北村祐輔

実施日: 2018,05,26 - 05,27

参加者: 新井 堀江 野呂 渡邊 菅野 久保田 藤山 三川 北村 計9名 (敬称略)

## 【1日目】

集合は山梨県で吉祥寺からは結構な距離があり忙しい朝だったが誰1人遅刻することなく集合することができた。しかし安心したのもつかの間、我々が乗る予定であったバスに問題が生じた。あの大きさのバスに対する明らかな定員オーバー、ジャンボタクシーが来ると言って去っていった係員まがいの運転手などなど。完全に凶られたと思ったが10数分後にマイクロバスのような車両が来たので助かった。任侠映画に出てきそうな運転手さん、マイクロバスが悲鳴をあげるほど道を急ぎ静かにシートベルトをしたのは自分だけであろうか。

バスに乗ってからは特に問題もなく登山口に到着。幕営地までも道は歩きやすく近かった。

拠点を設定しいざ瑞牆山へ。道中は木で直射日光から守られ、途中計画書であったように手袋をつけ四肢を使って登らなくてはならない箇所もあったが皆さん元気そうだった。山頂は見晴らしが良く明日への士気も高まった。

夜は親子丼と味噌汁を作った。どちらも非常に美味しく、自炊っていいな思った。夜はだいたい19時前後で旧テント組は就寝した。ただ、周りがまだ騒がしく、繊細な方はなかなか眠れなかったと後日聞いたので今後そのような状況に出くわした場合の対処法を考える必要があるようだ。

(コースタイム記録)

韮崎駅出発	→	みずかき山荘	→	富士見平小屋	→	天鳥川	→	瑞牆山山頂	→	天鳥川	→	富士見平小屋
9:10		10:30		11:20		12:50		14:00		14:55		15:20

## 【2日目】

朝 3:00 起床となかなか早めだったがご飯をしっかりと食べ、時間通りに出発できた。2日目からは先発隊と後発隊に分かれての登山で、両隊とも予定よりも早く進むことができ、後発隊に関しては先発隊に追いついてしまうほどのスピードであった。道中は昨日に引き続き四肢を使った登山で体幹と筋肉が試される登山となった。金峰山荘は非常に綺麗でお土産まで売っていた。あと犬、おそらくラブラドルがいて癒された。

下山後、バス停までの距離が非常に長かった。途中でキャンプ場がありアイスなどがありよかったが、そこからも長かった。ただ、バス停までに見た山梨の景色はなんだか夏休みのような錯覚を感じさせた。

〈先発〉														
富士見平小屋	→	大日小屋	→	大日岩	→	千代ノ吹上	→	金峰山小屋	→	金峰山山頂	→	金峰山小屋	→	八丁平
4:15		4:50		5:15		6:40		7:20		7:40		8:30		9:50
→	廻り目平	→	川端下	→	信濃川駅	→	小淵沢駅							
	10:50		12:40		13:25		14:20							

## 【まとめ】

まず登山中について、今回は前回の陣馬山とは一味違い行程中はロープを伝って登らなくてはならない険しい箇所も多々あった。事前連絡で手袋を装備するよう指示があったおかげで効果的かつ怪我なく突破することができ、計画と事前の情報収集の大切さが身に染みた。2日目の朝には雲海が姿を現し非常に神秘的だったり全体的に景色がよく瑞牆山・金峰山は魅力的な山だった。標高的にも前回とは違い約2倍、2000m級の山々で登り甲斐があり面白かった。

テント場での活動について、今回の瑞牆山・金峰山合宿は前回の新歓登山とは一味違いテント泊であったため我々新入部員の中には初テント泊だという人もいた。山は温度差がすごい、とよく言われるが実際今回も日中はシャツ1枚でも平気だが、夜、特に風が吹くと肌寒くフリースが大いに役立った。夕食時は親子丼と味噌汁を分担して効率よく準備できた。ただ、ほとんどを先輩任せにしてしまったので、次回からはしっかり役目を果たせるよう考えて行動していきたい。

最後にお菓子について、携行食糧というとカロリーメイトやソイジョイなどが代表的だがどれも甘く、途中から飽きはじめると前回の陣馬山で気づいた。特に夏合宿等の長期作戦では甘いものだけだと気が狂うかもしれない。そこで今回は魚肉ソーセージを試験的に配備してみたがこれが大正解。肉のような味、1本ごと梱包されているので運用しやすくかさばらない、などと革命的だった。皆さんにもぜひ一度魚肉を山に持って行って感動を共有していただきたい次第である。

最後に、今回、記録係に任命されたものの記録が断片的で情報量が少なくなってしまう申し訳ありません。追加でコースタイム情報がありましたら随時追加していきますので情報提供をお願いします。

以上